

近現代史(8)「19世紀フランス」

【ブルボン復古王政】(1814~1830)

○[①]](位 1814~24)

- ・ [②]]…ウィーン会議で仏代表タレーランにより正統主義が提唱される。フランス革命以前の主権と領土を正統とした。このためブルボン家が復活してルイ 18 世が即位した。
- ・ 反動政治…市民の選挙権を大幅に制限し、産業資本家や農民との対立が深まる。

○[③]](位 1824~30)

- ・ ルイ 18 世よりもさらに反動政治…亡命貴族への財産補償(10 億フラン賠償法)・軍隊の統帥権掌握。
- ・ [④]]出兵(1830)…国民の不满を海外へそらすために、出兵。

【七月王政】(1830~1848)

○[⑤]]

- ・ [⑥]]年 7 月選挙で国王反対派が圧勝→シャルル 10 世は選挙結果を無視し、出版統制を加える。

↓

- ・ パリ市民は革命を決行(戦闘 “⑦”)。シャルル 10 世はイギリスへ亡命。

↓

- ・ 革命派内部には共和派と立憲王政派の対立があったので、自由主義王族であったオルレアン家の [⑧]]が新王に即位。

○[⑨]]

- ・ 有権者が 1 パーセントにも満たない制限選挙。大ブルジョワジーに対する不满が国民中に高まる。

【第二共和政】(1848~1852)

○[⑩]]

- ・ 産業革命進行の中で階級対立深刻化。ルイ=フィリップの [⑪]]優先の政治に対し、産業

↓ 資本家と労働者階級の不满。

- ・ 反政府派の組織 [⑫]]が選挙法改正を政府に突き付けるも [⑬]]首相は拒否。

↓

- ・ [⑭] 1848]年 2 月 22 日、パリで暴動 → 革命派の勝利でルイ=フィリップはイギリスに亡命。

○第二共和制

- ・ 1848.2 : 臨時政府に共和派のラマルティエヌ、社会主義者の [⑮]]が入閣し共和政を宣言。
失業者救済のため [⑯]]設置(→資本家や農民に社会主義者への反感が強まる)
- ・ 1848.4 : 四月選挙。社会主義化で土地を失うことを怖れた農民が反労働者についたので社会主義派が大敗
- ・ 1848.6 : 国立作業場の閉鎖が決定⇒パリ労働者の [⑰]] ⇒鎮圧(社会主義勢力、後退)
- ・ 1848.12 : 大統領選挙で [⑱]]が当選 →1851 年クーデタで第二帝政開始!



①七月王政のルイ=フィリップ

↓

②第二共和制のラマルティエヌ

↓

③第二共和制六月暴動を鎮圧したカヴェニャック

↓

④第二帝政のルイ=ナポレオン

【第二帝政】(1852~1870)

○1851年のクーデタ

- ・議会内で王党派が多数を占めたのに対抗してルイ＝ナポレオンのクーデタ。議会を解散し、大統領の任期を10年に延長

○1852年 [24] の成立 ⇒ 国民投票で皇帝に就任。ナポレオン三世となる。

- ・ [25] …ブルジョワジーと労働者階級の勢力均衡を利用して、保守的農民層と中間層の支持で政権を維持。軍事力を背景に協力的独裁を行う。

☆専制帝政(権威帝政) 1852~60

<内政>

- ・ 1853~ : パリ市の大改造([26] 男爵) ⇒ 道路・建築など大土木工事实施(~70)
- ・ 1855 : [27] : ナポレオン三世の国威発揚

※万博は産業の発展の誇示とナショナリズムの昂揚の効果がある！

皇帝の威信高まる！

<外政>

- ・ 1853~1856 : [28] …聖地管理権問題。ロシアを英仏サルデーニャで破る。
- ・ 1856~1860 : [29] …イギリスと共に中国清王朝を侵略。
- ・ 1858~1867 : [30] …阮朝ヴェトナムを侵略。仏領インドシナの起源。
- ・ 1859 : [31] …サルデーニャの対奥戦争支援の見返りにサヴォイア・ニースを獲得。
- ・ 1860 : 英仏通商条約



☆自由帝政 1860~70 イタリア統一戦争や英仏通商条約を契機に自由主義運動が高まったため。

<内政>

- ・ 1867 : パリ万博 日本が正式参加。ドイツのクルップ社が大砲を展示

皇帝の威信失墜！

<外政>

- ・ 1861~67 : [32] …奥皇帝の弟マクシミリアンをメキシコ皇帝に立てるも見捨てて撤兵。
- ・ 1869 : スエズ運河開通



☆議会帝政 1870~ 69年に反対派が大幅に進出し、新憲法が發布されたため。

- ・ 1870 [33] : スペイン王位継承問題 ⇒ [34] で捕虜となり失脚。

【第三共和政】(1870~1940)

○1870 普仏戦争 ナポレオン三世セダンで捕虜となり廃位



○プロイセンとの戦争継続をめざして、国民防衛政府が結成！！



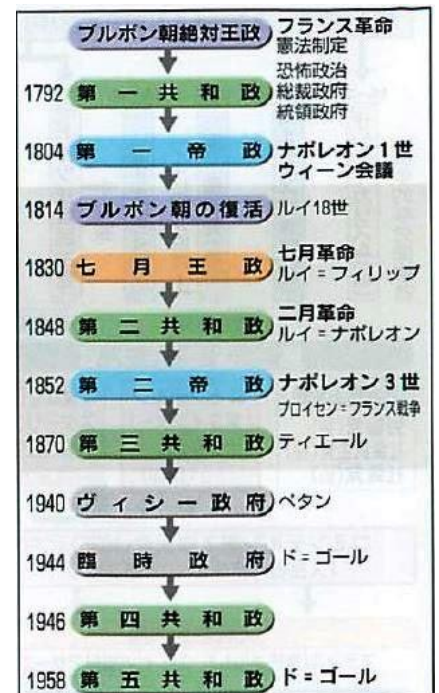
○1871 [35] から臨時政府、プロイセンと妥協して降伏



○講和に反対するパリの民衆は社会主義者の指導で [36] を結成(3月)。**労働者・小市民を中心とする史上初の社会主義政権**となったが・・・72日間で鎮圧される。



○1875年 [37] 制定



【七月革命の影響】

- オランダ：[⑩ ベルギー]の独立 → 蘭領東インド(インドネシア)で[⑪ 強制裁培制度]実施
- ロシア：ロシアが王位を兼ねる[⑫ ポーランド立憲王国]で反乱 → 失敗
- イタリア：中部イタリアで秘密結社[⑬ カルボナリ](炭焼党)の反乱 → 失敗
- イギリス：1832年[⑭ 第1回選挙法改正]
⇒産業資本家に選挙権・腐敗選挙区の廃止(ホイッグ党グレー内閣)

【二月革命の影響】

- ドイツ連邦 (1815～1866：奥を議長国とする35の君主国と4自由市で構成された全ドイツ的組織)
 - ・オーストリア：ウィーン三月革命が起こり、[⑲ メッテルニヒ]がイギリスに亡命。
 - ・ハンガリー：[⑳ コッシュート]指導下のマジャール人がハンガリーの独立を宣言
 - ・ボヘミア：[㉑ プラハ]でチェク人の独立運動
 - ・プロイセン：[㉒ ベルリン三月革命]で欽定憲法制定。自由主義者によりドイツの統一を協議する[㉓ フランクフルト国民議会]の開催 → 失敗
- イタリア：分裂状態
 - ・サルディーニャ：国王[㉔ カルロ=アルベルト]が民主的憲法を制定し、イタリア統一のためロンバルディア回復を狙って対オーストリア宣戦 → 失敗
 - ・青年イタリア：マッツィーニ指導により[㉕ ローマ共和国]を樹立宣言 → フランスの干渉で失敗
- イギリス
 - ・フランスでの労働者勢力の台頭に刺激され[㉖ チャーティスト運動]が最高潮 → 失敗